

FileMaker® 8

FileMaker 8 ODBC および JDBC
クライアントドライバのインストール



© 2004-2005 FileMaker, Inc. All Rights Reserved.

FileMaker, Inc.

5201 Patrick Henry Drive

Santa Clara, California 95054

FileMaker 及びファイルメーカーは、FileMaker, Inc. の米国及びその他の国における登録商標です。ScriptMaker 及びファイルフォルダロゴは、FileMaker, Inc. の商標です。

FileMaker のドキュメンテーションは著作権により保護されています。FileMaker, Inc. からの書面による許可無しに、このドキュメンテーションを複製したり、頒布することはできません。このドキュメンテーションは、正当にライセンスされた FileMaker ソフトウェアのコピーがある場合そのコピーと共にのみ使用できます。

また、製品及びサンプルファイル等に登場する会社名、氏名、住所などのデータは全て架空のもので、実在する企業、人物とは一切関係ありません。

スタッフはこのソフトウェアに付属する「Acknowledgements」ドキュメントに記載されます。

詳細情報については www.filemaker.co.jp をご覧ください。

目次

FileMaker 8 ODBC および JDBC クライアントドライバのインストール

カスタマサポート	5
ソフトウェアライセンスの遵守	5
必要なハードウェアとソフトウェア	5
ODBC クライアントドライバの必要条件 (Windows)	5
ODBC クライアントドライバの必要条件 (Mac OS)	5
JDBC クライアントドライバの必要条件	6
ネットワークを使用する場合の必要条件	6
FileMaker での ODBC と JDBC の使用	6
クライアントドライバのインストール	6
ODBC クライアントドライバのインストール (Windows)	6
ODBC クライアントドライバのインストール (Mac OS)	7
JDBC クライアントドライバのインストール (Windows および Mac OS)	7
クライアントドライバの設定	8
この後の作業を開始するにあたって	8

4 FileMaker ODBC および JDBC クライアントドライバのインストール

FileMaker 8 ODBC および JDBC クライアントドライバのインストール

このガイドの説明は、ODBC (Open Database Connectivity) および JDBC (Java Database Connectivity) を使用してサードパーティアプリケーションやカスタムアプリケーションから FileMaker® データソースにアクセスするために必要なドライバをインストールする場合に役立ちます。

必要なクライアントドライバをインストールしたら、ドライバを設定して FileMaker データソースにアクセスしたり、SQL (構造化照会言語) クエリーを構築してデータを操作できます。

このガイドでは、「FileMaker Server」は FileMaker Server 8 Advanced を指すものとして使用しています。FileMaker Server 8 Advanced では、ODBC および JDBC を使用して他のアプリケーションと FileMaker データベースファイルを共有できます。

重要 最新クライアントドライバや FileMaker 8 ODBC および JDBC に関するマニュアルの PDF は、www.filemaker.co.jp からダウンロードすることができます。

カスタマサポート

テクニカルサポートとカスタマサービスに関する情報については、www.filemaker.co.jp を参照してください。

この Web サイトでは、よく寄せられる質問の回答、およびテクニカルサポートで使用される TechInfo データベースを参照できます。

ソフトウェアライセンスの遵守

ODBC および JDBC クライアントドライバは FileMaker ソフトウェアのドライバの一部で、他社のアプリケーションやカスタムアプリケーションから、ODBC または JDBC データソースとしての FileMaker Pro や FileMaker Server にアクセスできるようにします。クライアントドライバは、FileMaker ソフトウェアとともに使用する場合に限り、複製および配布できます。

必要なハードウェアとソフトウェア

ODBC および JDBC クライアントドライバをインストールして使用するには、次のハードウェアとソフトウェアが最低限必要です。

ODBC クライアントドライバの必要条件 (Windows)

- Pentium 300 MHz 以上のプロセッサを搭載したコンピュータ
- 必要な合計 RAM 容量 : Windows 2000 の場合 64 MB、Windows XP の場合 128 MB
- MDAC (Microsoft Data Access Components) 2.6、2.7、または 2.8

ODBC クライアントドライバの必要条件 (Mac OS)

- Apple G3 以上 (G3 プロセッサアップグレードカードはサポートされません)
- 必要な合計 RAM 容量 : 128 MB
- Mac OS X バージョン 10.3.9 または 10.4 (このソフトウェアは、FileMaker によって確認された以降のバージョンでも動作します。)

JDBC クライアントドライバの必要条件

アプリケーションが使用する API	必要条件
JDBC 1.2.2 API	JDK 1.2 互換の JVM (Java 仮想マシン)
JDBC 2.0 Core API	JDK 1.3 互換の JVM
JDBC 2.0 Optional Package	JDK 1.3 互換の JVM さらに、次の API も必要です。これらは SequeLink Java クライアントに付属します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ JDBC 2.0 Optional Package ■ JNDI 1.2 ■ JTA 1.0.1
JCA API	JDK 1.3
JDBC 3.0 API	JDK 1.4

実行されている Java のバージョンを確認するには、コマンドウインドウ (Windows) またはターミナルウインドウ (Mac OS) を開いて、“java -version” と入力します。

ネットワークを使用する場合の必要条件

別のコンピュータ上でホストされた FileMaker データソースにアクセスする場合は、TCP/IP によるネットワークアクセスが必要です。

FileMaker での ODBC と JDBC の使用

ODBC および JDBC は、API (アプリケーションプログラミングインターフェース) です。これらの API は、クライアントアプリケーションに、FileMaker を含む各種のデータソースとデータベースサービスに接続するための共通言語を提供します。

ODBC および JDBC をサポートするすべてのアプリケーションは、SQL ステートメントの基本的なサブセットを認識します。SQL は、ODBC および JDBC インターフェースを介してデータソースの FileMaker ホストへ渡されます。SQL を操作すると、他のアプリケーション (スプレッドシート、ワードプロセッサ、レポートツールなど) を使用して、FileMaker のデータを表示、分析、および修正することができます。

クライアントドライバのインストール

クライアントドライバは、FileMaker Server Web Publishing CD および FileMaker Pro CD のそれぞれ「¥xDBC ¥ODBC Client Driver Installer」フォルダおよび「¥xDBC¥JDBC Client Driver Installer」フォルダにあるインストーラにより、個別にインストールすることで利用できるようになります。また、www.filemaker.co.jp から、クライアントドライバの最新バージョンをダウンロードすることもできます。

ネットワーク環境で作業する場合、データベース管理者によって、ユーザがアクセス可能なネットワーク上の場所に、インストールプログラムが保存されていることがあります。

ODBC クライアントドライバのインストール (Windows)

すでに Windows 用 ODBC クライアントドライバがインストールされている場合は、このドライバをアンインストールしてからアップデートバージョンをインストールしてください。

ODBC クライアントドライバをインストールするには、次の操作を行います。

ODBC クライアントドライバをインストールするには、MDAC 2.6、2.7、または 2.8 が必要です。MDAC は、www.microsoft.com から入手できます。

1. 「¥ODBC Client Driver」フォルダで [setup] をダブルクリックします。

DataDirect SequeLink for ODBC 5.4 - InstallShield ウィザードが表示されます。

2. 画面の指示に従って、ODBC クライアントドライバをインストールします。

Data Source SyncTool、Data Source SyncTool Administrator、および SequeLink Online Books は、デフォルトではインストールされる項目の一部として選択されていません。ODBC クライアントドライバを使用する際にこれらは必要ありません。

デフォルトでは、ODBC クライアントドライバは「C:\Program Files\DataDirect\slodbc54」フォルダにインストールされます。必要に応じて、別のドライブまたは別のフォルダを選択します。

3. インストールが終了したら、[Finish] をクリックします。

これで、FileMaker データソースにアクセスするための設定を行う際に、ODBC クライアントドライバ「DataDirect 32-BIT SequeLink 5.4」を利用できるようになります。

注意 直接インストールできない場合は、代わりに Windows の [プログラムの追加と削除] を使用してドライバをインストールしてください。このコントロールパネルを開くには、[スタート] メニューの [設定] サブメニューから [コントロールパネル] を選択し、[プログラムの追加と削除] を選択します。

注意 ODBC データソースアドミニストレータの一覧にドライバが含まれていない場合は、Regedit を使用して、レジストリキー HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ODBC\ODBCINST.INI\ODBC Drivers の「[(既定)] という文字列を削除します ([スタート] メニューの [ファイル名を指定して実行] を選択し、「Regedit」を指定します)。このエントリのデータは、[(値の設定なし)] です。データが空白の場合は、[(既定)] を右クリックして、[削除] を選択し、[はい] をクリックして削除を確認します。この操作により、エントリが [(値の設定なし)] にリセットされます。ODBC クライアントドライバをアンインストールし、再インストールして、ODBC データソースアドミニストレータで確認します。

ODBC クライアントドライバのインストール (Mac OS)

すでに Mac OS 用 ODBC クライアントドライバがインストールされている場合は、このドライバをアンインストールしてから、アップデートバージョンをインストールしてください。

ODBC クライアントドライバをインストールするには、次の操作を行います。

「/ODBC Client Driver」フォルダから、「SequeLink.bundle」ファイルをシステムまたはユーザのライブラリにコピーします。「/ODBC」フォルダがない場合は手動で作成してください。

ライブラリ	SequeLink.bundle の コピー先フォルダ	設定時に使用するドライバパス
システム	/Library/ODBC	/Library/ODBC/SequeLink.bundle/Contents/MacOS/ivslk18.dylib
ユーザ	/Users/<ユーザ>/Library/ODBC	/Users/<ユーザ>/Library/ODBC/SequeLink.bundle/Contents/MacOS/ivslk18.dylib

このクライアントドライバは、次の iODBC ドライバマネージャでテスト済みです。

- OpenLink ODBC Administrator 3.52.1 (OpenLink Software から入手可能)
- Apple ODBC Administrator 1.0.1 (Mac OS X 10.3 に付属)

重要 クライアントアプリケーション用に推奨される iODBC ドライバマネージャソフトウェアにバンドルされている ODBC Administrator を使用してください。OpenLink ODBC Administrator が必要な場合は、OpenLink の Web サイトからダウンロード可能な ODBC-JDBC Lite Bridge にバンドルされています。

JDBC クライアントドライバのインストール (Windows および Mac OS)

インストールプログラムと JDBC クライアントドライバは、Windows および Mac OS の両方で動作します。ユーザは、JDBC クライアントドライバのインストール先として使用するフォルダに対して、書き込みアクセス権が必要です。デフォルトでは、インストールプログラムが入っているフォルダがインストールフォルダとなります。

すでに JDBC クライアントドライバがインストールされている場合は、このドライバをアンインストールしてからアップデートバージョンをインストールしてください。

JDBC クライアントドライバをインストールするには、次の操作を行います。

1. 「JDBC Client Driver」フォルダで「sljcininstaller.jar」をダブルクリックします。
[DataDirect SequeLink for JDBC 5.4 Installer] ウィンドウが表示されます。
2. [Next] をクリックします。
ライセンスの条項を確認します。
3. ライセンスの条項に同意する場合は、[I accept the terms of the license agreement] をクリックして、[Next] をクリックします。
インストールオプションウィンドウが表示されます。
4. [Install Developer's Tools] を選択します。
これらのツールには、JDBC 接続の確認に役立つ JDBCTest が含まれています。
5. [Install Directory] を入力します。
 - Windows: Java 実行可能ファイル (java.exe) が含まれるパスを入力します。
 - Mac OS: “/Library/Java/Extensions” (または Java アプリケーションの ClassPath に含まれる別の場所) を入力します。
6. [Next] をクリックします。
7. 選択したインストールを確認してから、[Install] をクリックします。
8. インストールが終了したら、[Finish] をクリックします。
これで、FileMaker データソースにアクセスするための設定を行う際に、JDBC クライアントドライバを利用できるようになります。

クライアントドライバの設定

クライアントアプリケーションを使用して FileMaker データソースにアクセスする前に、データソースに対してクライアントドライバを設定する必要があります。これらの設定では、使用するクライアントドライバ、データソースの場所、および接続する方法の詳細を指定します。

重要 クライアントドライバを設定する際、ポートとして“2399”を指定する必要があります。ポートの指定は、ODBC (Windows) では ODBC データソース アドミニストレータで行い、ODBC (Mac OS) では OpenLink ODBC Administrator または Apple ODBC Administrator で行います。JDBC では JDBC URL でポートを指定します。

クライアントドライバの設定、および FileMaker データソースへのアクセスの確認の詳細については、『FileMaker ODBC および JDBC デベロッパーズガイド』を参照してください。このガイドは、FileMaker Pro CD の「¥xDBC¥マニュアル (PDF)」フォルダ、FileMaker Server をインストールした場合は「¥日本語エキストラ¥マニュアル (PDF)」フォルダ、および www.filemaker.co.jp から入手できる PDF ファイルとして収録されています。ネットワーク環境で作業する場合、このドキュメントのコピーについては、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

Windows での ODBC クライアントドライバの詳細については、Windows の [スタート] メニューの [プログラム] サブメニューから [DataDirect SequeLink for ODBC 5.4] を選択し、[Driver Help] を選択してください。

注意 このヘルプシステムは DataDirect Technologies によって提供されており、ODBC および JDBC クライアントドライバを使用して FileMaker データソースにアクセスするために必要な情報以外の一部の機能についても説明しています。

この後の作業を開始するにあたって

クライアントドライバをインストールして設定したら、SQL クエリーを構築して実行し、FileMaker データソースにアクセスできます。

クライアントアプリケーションでは、ODBC によるデータソースへのアクセスに対して異なる用語が使用されている場合があります。多くのアプリケーションには、[Get external data] や [SQL query] などの名前メニュー項目があります。詳細については、アプリケーションに付属のマニュアルまたはヘルプを参照してください。